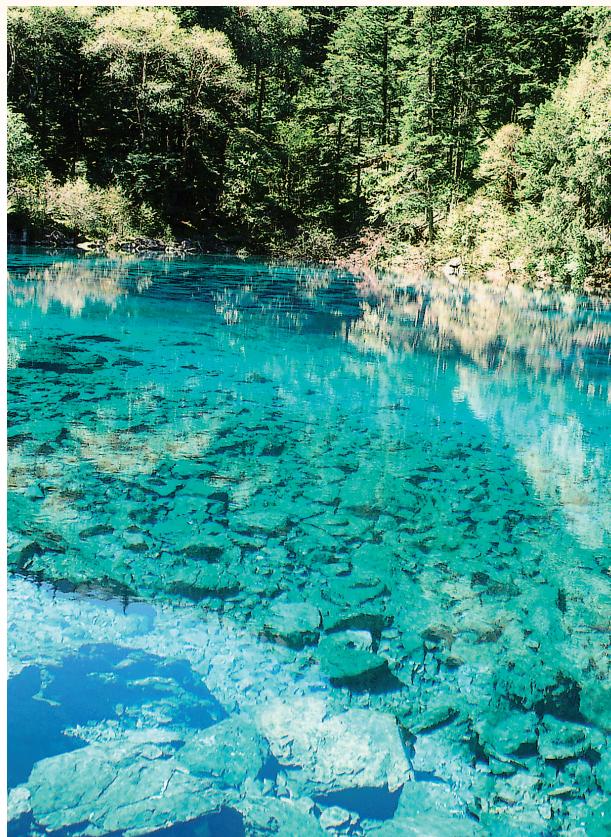




ノルブリンカ（ダライ・ラマの夏の宮殿）



老人



九寨溝



黄龍

平成11年から8年ぶりにチベットに入った。ホテルが多数建築され、町には商品が溢れていた。それでもチベット族の生き方は変わらず、敬虔な祈りの中にあった。

九寨溝・黄龍は四川省に含まれるが、人里離れたチベット族の居住地であった。現代中国の最大の観光地であるため、入山者の増加で山が荒れているのではと心配していた。然し、幅6メートルを越える木道を構築し、至る所にトイレを設置し、ゴミをチベット族らが徹底的に回収して回っていた。

成都では若い女性の服装が銀座と変わらなかった。要するに、開放経済体制で、「衣食足りて礼節を知る」状況になったと実感された。

会員 助川 裕

Tibet